

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[opctest 実行して下さい](#)

[opctest コマンド](#)

[デバッグ情報](#)

[終了およびやめられた opctest](#)

[関連情報](#)

概要

Open Peripheral Controller (OPC) Test (opctest) コマンドライン ユーティリティでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) ペリフェラル ゲートウェイ (PG) OPC プロセスのさまざまなパラメータを表示し、設定することができます。Microsoft Windows OS コマンドプロンプトまたは Telnet セッションから opctest を実行できます。

注PC でまたは pcANYWHERE を通してコマンドプロンプトを、使用して下さい。コマンドプロンプトの使用はデータ列が頻繁に多くを示すのでよりよいですより Telnet 示すことができる。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

opctest 実行して下さい

opctest 開始するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. `opctest /cust custname /node ICM ノードネーム` コマンドを発行して下さい。注 *custname* は顧客名を示し、*ICM ノードネーム* はノードネームです。例は `opctest /cust abc /node pgx`

です。

2. **opctest**/発行して下さいか。コマンドプロンプトで命じて下さい。このコマンドは **opctest** 実行の情報を示したものです。
3. **opctest** 開始した後、**型ヘルプ**または**か**。すべての利用可能なコマンドのリストを表示するために。もっとも一般的なコマンドは PG の健全性および状態を表示するステータスです

出力例はここにあります:

```
C:\> opctest /?Version: Release 4.0, Build 04624Usage: opctest [/f InputFile] [/system
SystemName] [/cust Customer] [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop]
[/help] [/?]
```

[図 1](#) status コマンドのためのより詳しい出力を示します:

図 1?OPCTest ステータス 出力

```
C:\>opctest /cust/node pgl a
OPCTEST Release 2.5 (service pack 2), Build 03105
opctest: status
OPC Version: Release 2.5 (service pack 2), Build 03116
Release Date: 09/28/98 07:01:57

Current Time: 03/17 17:47:07
Local Time: 03/17 12:47:07 (5.0 hr)
OPC Up: 12/08 18:59:52 (98.9 day)

OPC Sync: 03/13 22:18:33 (3.8 day) (A->B)

Process LastStateChange LastHeartBeat
A opc H-- 03/17 17:46:52 (16 sec)
A pgag OK M- 12/08 18:59:56 (98.9 day) --
A piml OK M- 03/12 19:35:58 (4.9 day) --
A ctisvr --- --
B pgag OK M- 12/08 18:59:53 (98.9 day) --
B piml OK M- 03/13 22:18:42 (3.8 day) --
B ctisvr --- --
B opc H-- 03/17 17:46:52 (16 sec)

PGAgent LastStateChangeTime ConnectATime Status ConnectBTime Status
SideA PIA 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED
SideB P-- 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED

PeripheralID Side State LastStateChange LastHeardFrom
1 A PIM_ACTIVE PR 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/17 17:47:07 (1 sec)

CTIServerNo Side State LastStateChange LastHeardFrom
1 ? CTI_NULL 12/08 19:00:02 (98.9 day) --
```

Indicates which side of the PG is supplying the Call Router with status of the PG

Processes on the PGs & their states.

*PGAG – manages session layer communications between the PG & the Central Controller
SEE NOTE BELOW*

Peripheral Interface Manager/PIM

CTI Server

注ICM バージョン 4.1 では、Peripheral Gateway Agent (PGAgent) セクション現在のアクティブな側面のためのディスプレイ。この例では、PG5B の PGAgent はアクティブな側面です。PG5A はアイドル状態です:

```
C:\> opctest /?Version: Release 4.0, Build 04624Usage: opctest [/f InputFile] [/system
SystemName] [/cust Customer] [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop]
[/help] [/?]
```

[opctest コマンド](#)

型ヘルプまたはか。 `opctest` コマンド プロンプトで利用可能なコマンドのリストを表示するために。

いくつかの `opctest` コマンドは、`List_Agents` および `List_Trunk_Group` のような、1つ以上の追加コマンドラインスイッチを必要とします。 Type コマンド名前/か。適切な構文を得るため。次に例を示します。

```
C:\> opctest /?Version: Release 4.0, Build 04624Usage: opctest [/f InputFile] [/system
SystemName] [/cust Customer] [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop]
[/help] [/?]
```

デバッグ情報

`opctest` の内の特定のデバッグを有効にするために `debug` コマンドを発行して下さい。 `debug` コマンドは [トレースの上の回転](#) によってデバッグ制御を有効にします。デバッグ制御の enablement は OPC プロセスのためにレジストリかターンアップを `EMSTraceMask` 調節する場合はるかに有効よりです。デバッグ制御の enablement は追加トレースを必要とする OPC の方のトレースの上で回ります。OPC Event Management System (EMS) ログファイルのトレース結果ディスプレイ。EMS ログの出力を表示するために `dumplog` を使用して下さい。詳細については [Dumplog ユーティリティを使用する方法](#) を参照して下さい。

次に例を示します。

```
opctest: debug /?Usage: debug_control [/realtime] [/agent] [/halfhour] [/rcmeter] [/routing]
[/skillgroup] [/closedcalls] [/cstaecr] [/cstacer] [/pimmsg] [/ctimsg]
[/rcmsg] [/dmpmsg] [/icmsg] [/opcmsg] [/mdsmmsg] [/pdmsg] [/inrcmsg]
[/passthru] [/tpmsg] [/physctrlr] [/periph] [/all] [/help] [/?]
```

変換ルートに関する問題を解決する必要がある場合 `debug /routing` コマンドを発行して下さい。

解決することを終わるときすべての OPC トレーシングを消すために `/noall` スイッチを使用して下さい。トレースを出て来られて残す場合、パフォーマンス問題は生じる場合があります。

終了およびやめられた opctest

OPCTest ユーティリティを終了するために `quit` コマンドを発行して下さい。



注意： `exit_opc` コマンドを発行するとき注意して下さい。このコマンドは二重にされた場合 PG の両側で終了するように OPC プロセスに指示したものです。Node Manager は再起動するためにプロセスを強制し呼び出しルータのための設定のリロードを強制する。すべての内部周辺装置およびエージェントの状態はフラッシュされます。それから、OPC および Peripheral Interface Manager (PIM) は PG および設定を学び直します。

関連情報

- [Dumplog ユーティリティの使用法](#)
- [トレース機能を強化する場合](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)